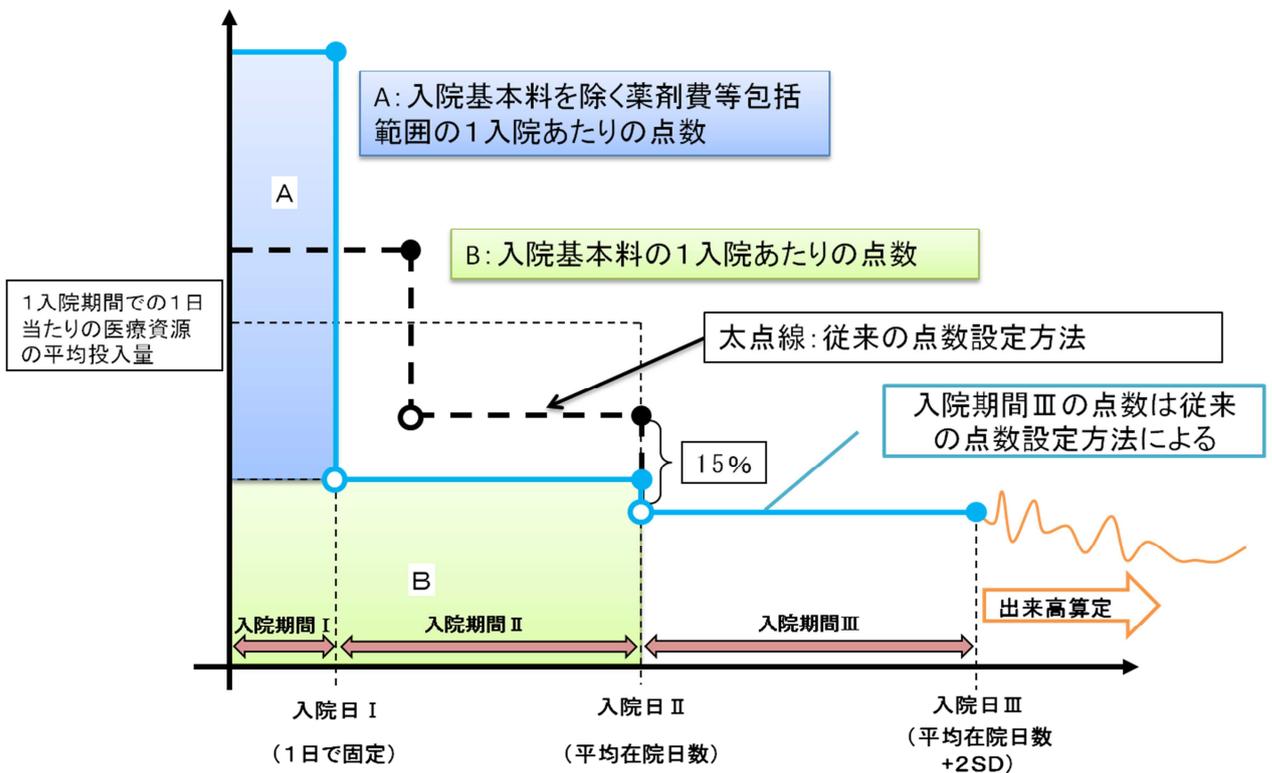


算定ルール等の見直しについて

1. 平成24年度改定において見直した算定ルールについて 高額薬剤に対応するために導入された点数設定方式について

- 特定の診断群分類について、在院日数遷延を防止する観点から、平成24年度改定において、入院基本料を除く薬剤費等包括範囲の点数を入院期間Ⅰの点数に組込む設定（下図）を22の診断群分類において試行的に導入した。

（参考）平成24年度改定で導入した新たな点数設定方式



※ 対象となる診断群分類は、定期的に投与するタイプの薬剤（週1回、3週に1回等）を使用すること、平均在院日数がある程度短いこと等の観点から選定。

- 試行的に導入した結果、22の診断群分類のうち、20の診断群分類において平均在院日数の短縮が認められている。

（参考）新たな点数設定方式を導入した22の診断群分類における、平成23年度と24年度で比較した平均在院日数の変化について

H24年診断群分類	分類名等	H23年	H24年	差
020200xx99x3xx	黄斑、後極変性 ペガブタニブナトリウムあり	2.28	2.13	-0.15
020200xx99x4xx	黄斑、後極変性 ラニビズマブあり	2.52	2.44	-0.08
040040xx9907xx	肺の悪性腫瘍 ペメトレキセドナトリウム水和物あり	15.05	13.83	-1.22

040040xx9908xx	肺の悪性腫瘍 ペバシズマブあり	12.95	12.46	-0.49
040050xx99x4xx	胸壁腫瘍、胸腺腫瘍 ペメトレキセドナトリウム水和物あり	14.71	14.01	-0.70
060020xx99x40x	胃の悪性腫瘍 パクリタキセルまたはドセタキセルあり	9.21	8.89	-0.32
060035xx99x4xx	大腸の悪性腫瘍 FOLFILI 療法あり	4.38	4.31	-0.06
060035xx99x50x	大腸の悪性腫瘍 ペバシズマブなどあり	4.56	4.47	-0.09
060040xx99x5xx	直腸肛門の悪性腫瘍 FOLFOX 療法あり	4.32	4.32	0.01
060040xx99x60x	直腸肛門の悪性腫瘍 ペバシズマブなどあり	4.43	4.29	-0.15
070470xx99x3xx	関節リウマチ エタネルセプトあり	17.38	18.43	1.04
070470xx99x4xx	関節リウマチ アダリムマブ、ゴリムマブあり	14.95	13.46	-1.49
070470xx99x5xx	関節リウマチ アバタセプト、トシリズマブあり	4.69	4.56	-0.14
070470xx99x6xx	関節リウマチ インフリキシマブあり	3.27	2.97	-0.29
070470xx99x7xx	関節リウマチ インフリキシマブ(強直性脊椎炎の場合)あり	4.90	3.98	-0.91
080140xxxxx2xx	炎症性角化症 インフリキシマブあり	2.93	2.66	-0.27
090010xx99x4xx	乳房の悪性腫瘍 パクリタキセルまたはドセタキセルありなど	6.10	5.63	-0.47
090010xx99x5xx	乳房の悪性腫瘍 トラスツズマブあり	4.78	4.67	-0.11
090010xx99x60x	乳房の悪性腫瘍 パクリタキセル(アルブミン懸濁型)あり	6.30	4.94	-1.37
120010xx99x50x	卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍 カルボプラチン+パクリタキセルありなど	5.57	5.24	-0.33
120010xx99x60x	卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍 ドキシソルビシン塩酸塩リボソーム製剤あり	5.29	4.86	-0.43
130030xx99x5xx	非ホジキンリンパ腫 イブリツモマブチウキセタン塩化イットリウムあり	13.35	11.86	-1.49

※平成 23 年度は平成 23 年 4～9 月分、平成 24 年度は平成 24 年 4～9 月分のデータを使用

(論点)

- 試行的に導入した 22 の診断群分類については、通年データも検証した上で、平均在院日数の短縮の効果が認められる診断群分類について、引き続き当該点数設定方法を継続することについてどのように考えるか。
- 試行的に導入した 22 の診断群分類以外の高額な薬剤を使用する診断群分類についても、当該点数設定方式を適用することについてどのように考えるか。
- 高額な薬剤を使用する診断群分類だけでなく、高額な材料を用いる検査(心臓カテーテル検査)等についても当該点数設定方式を適用することについてどのように考えるか。

2. その他算定ルール等の見直しに係る検討課題（案）

① 亜急性期入院医療管理料

- DPC 算定病床から亜急性期病床への転床時期（算定開始時期）は、患者像の相違ではなく、主として診療報酬算定上のメリットにより転床が実施されている可能性があり、適切な病床の機能分化の推進という観点から、何らかの対応が必要ではないかと考えられる。

（論点）DPC 算定病床に入院した後、亜急性期入院医療管理料を算定する病室に転床した患者にかかる算定ルールについてどのように考えるか。

（参考）DPC 病院における亜急性期入院医療管理料

（平成 23 年 11 月 25 日 中医協総会 総-1）

DPC病院における亜急性期入院医療管理料算定病

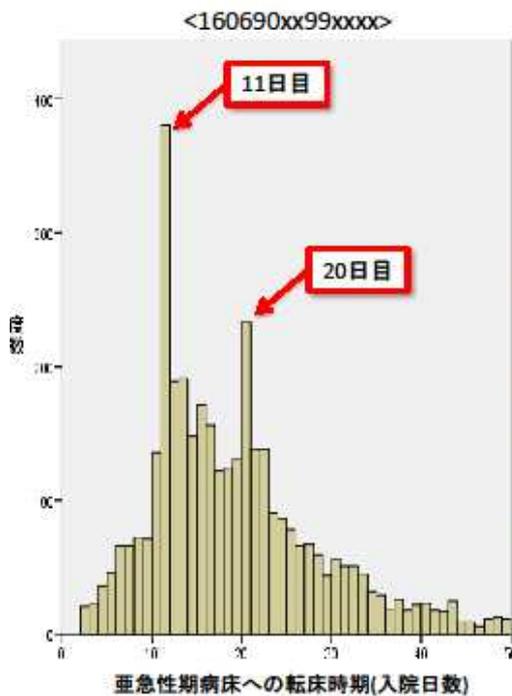
(改) 中医協 総-1
23. 11. 25

胸椎、腰椎以下骨折損傷 (胸・腰髄損傷を含む) 手術なし

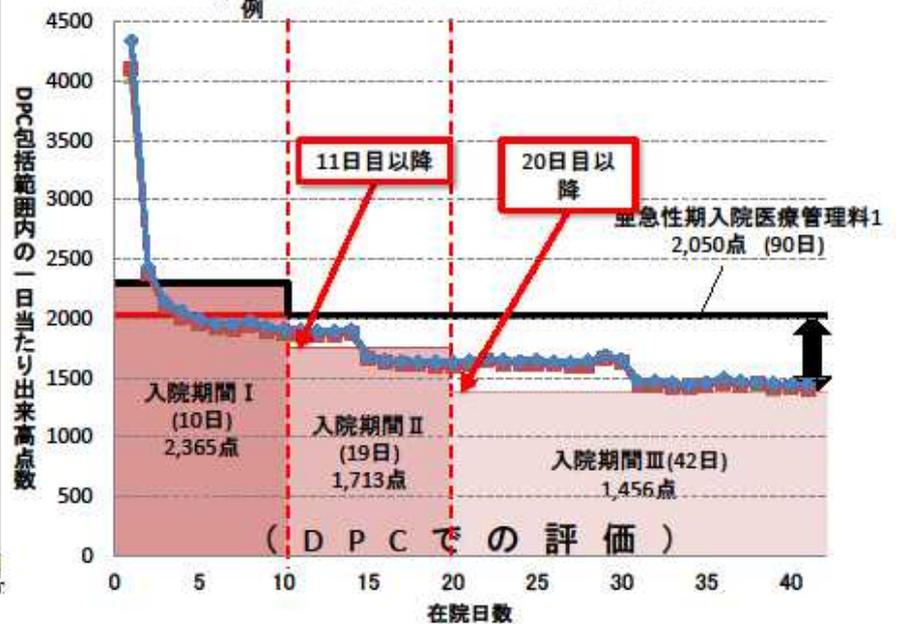
<亜急性期病床の利用の有無による診療密度の違い>

- 亜急性期病床を利用した症例 ……A群
- 亜急性期病床を利用しなかった症例 ……B群
- 亜急性期病床を併設していない医療機関の症例 ……C群

<亜急性期病床への転床時期>



出典：平成23年度DPCデータ



— A群 — B群 — C群

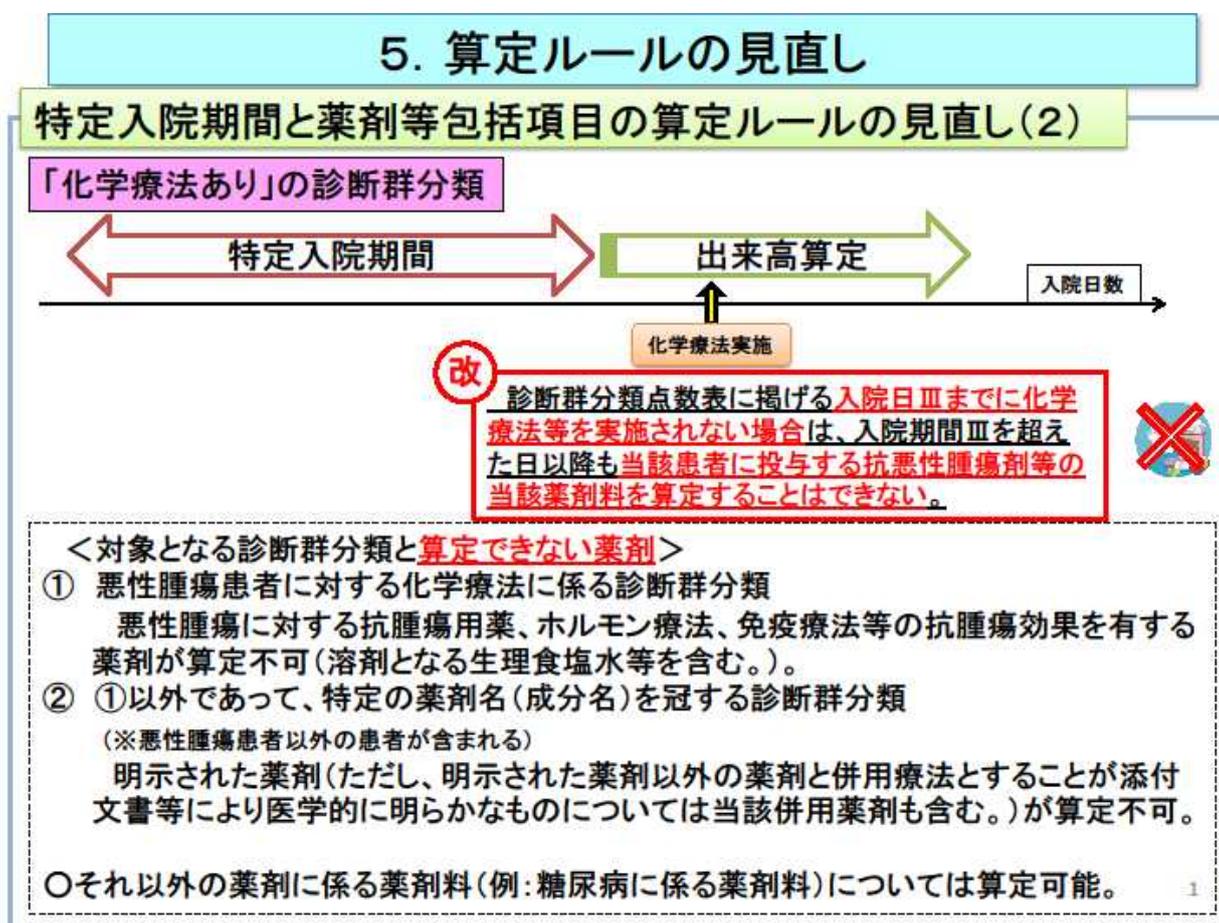
② 特定入院期間を過ぎるまで行われなかった高額な材料・薬剤を用いる検査の取り扱いについて

- 高額な薬剤・材料を用いる検査（心臓カテーテル検査、内分泌負荷検査等）が行われる診断群分類について、現行の算定ルールにおいては、入院期間Ⅲまでに検査が実施されず出来高算定期間に検査が実施された場合、検査に係る材料料・薬材料が別途出来高算定可能となるため、入院期間Ⅲを過ぎるまで入院を延長し、出来高算定期間に入ってから検査を実施する事例があるという指摘がある。

（論点）

- 心臓カテーテル検査・内分泌負荷検査等高額な材料・薬剤を用いる検査に係る診断群分類については、「入院日Ⅲまでに当該検査が実施されなかった場合、入院期間Ⅲを超えた日以降に実施された当該検査に用いる薬剤費、材料費は算定できない」という算定ルールを導入することについてどのように考えるか。
（悪性腫瘍患者に対する化学療法に係る診断群分類においては同様のルールを適用済み）

（参考）悪性腫瘍患者に対する化学療法に係る診断群分類に適用される算定ルール
（平成 24 年度改定で導入）



③ 退院後3日以内に再入院となった場合の算定ルールについて

- 3日以内に再入院となった症例については、前回入院の「医療資源を最も投入した傷病名」と再入院の契機となった傷病名の診断群分類番号上6桁コードが同一である場合、前回入院と一連の入院であるものとみなし、入院期間の起算日は初回入院の入院日として算定することとされている。

(論点)

- 一連の入院とみなすか否かについて、再入院時は「入院の契機となった傷病名」によって評価しているが、再入院時についても「医療資源を最も投入した傷病名」によって評価することについてどのように考えるか。
- 「3日」という日数の設定についてどのように考えるか。

(※参考①～③は平成24年4月1日以降入院で7月1日～7月31日に退院した症例を追跡)

参考①

前回入院時の「医療資源を最も投入した傷病名」と再入院時の「入院の契機となった傷病名」の一致しない症例の件数とその率（再入院までの日数別）

再入院までの期間(日)	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目
件数	1,072	1,307	1,436	1,515	1,534	1,626	1,638	1,401	1,347	1,336
比率	56.7%	57.0%	55.8%	39.7%	31.4%	29.1%	35.5%	42.6%	40.1%	35.2%

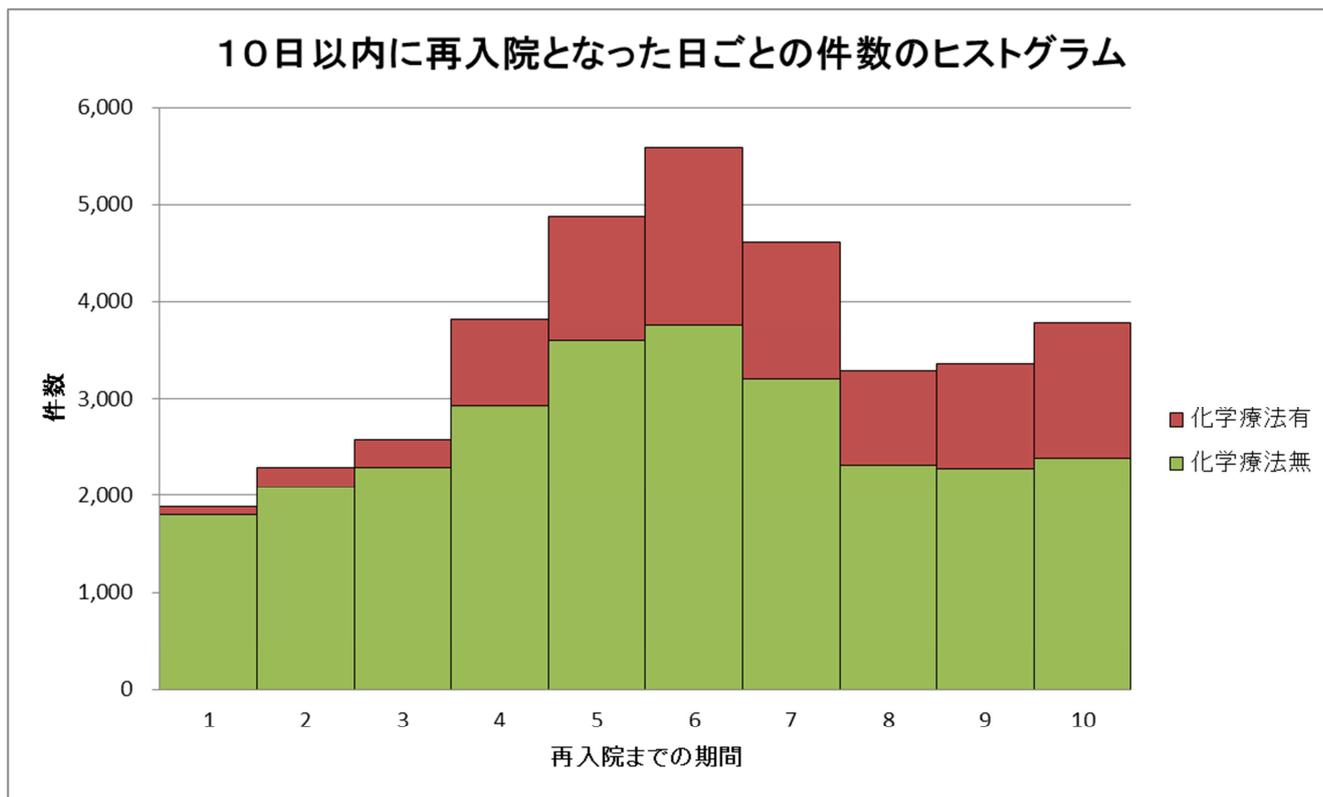
参考②

前回入院時の「医療資源を最も投入した傷病名」と再入院時の「入院の契機となった傷病名」の一致しない症例のうち、前回入院時の「医療資源を最も投入した傷病名」と再入院時の「医療資源を最も投入した傷病名」の一致する症例の件数とその率（再入院までの日数別）

再入院までの期間(日)	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目
件数(※)	84	134	142	149	142	169	154	118	121	115
比率(※)	7.8%	10.3%	9.9%	9.8%	9.3%	10.4%	9.4%	8.4%	9.0%	8.6%

参考③

10日以内に再入院となった日ごとの件数のヒストグラム（再入院時の化学療法あり・なし別）



④ 持参薬について

- 入院前に自院または他院の外来において、入院時に使用する薬剤を大量に処方し患者に持参させることを系統的に行っている医療機関があるという指摘があるが、このような事例についてどのように考えるか。

⑤ その他

- その他算定ルール等に関連して検討すべき項目はあるか。